

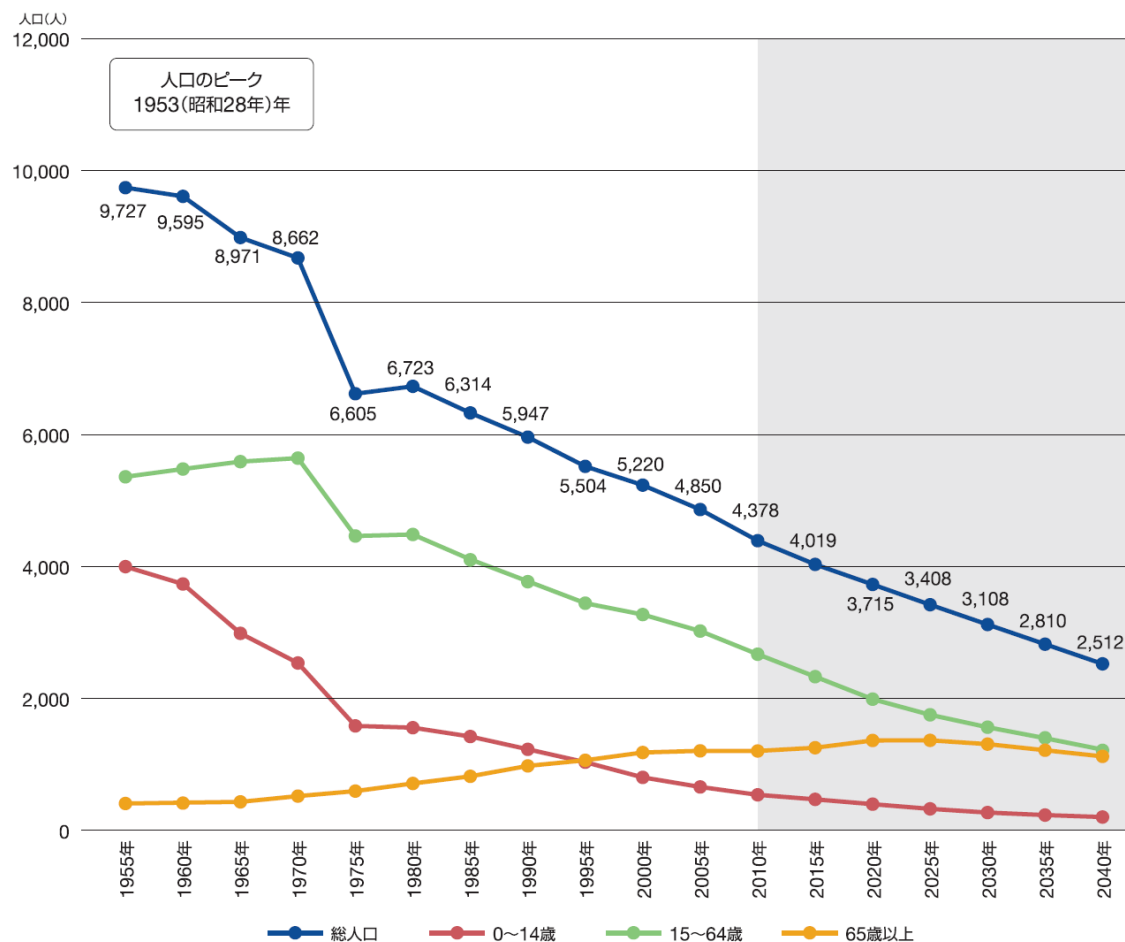
豊富町の概要及びまちづくり計画策定に向けて

- (1) 統計データから見る現状と課題
- (2) 町民意向(アンケート調査結果概要)
- (3) まちの特徴や地域資源、ポテンシャル
- (4) 豊富町を取り巻く社会情勢の変化
- (5) 国や北海道の上位計画、関連計画
- (6) これからの豊富町のまちづくりに求められること、主要課題や重要な視点

(1) 統計データから見る現状と課題

■人口

- 豊富町の人口は、1953年をピークに急速に人口が減少し、国勢調査によると2015年(平成27年)に人口4,054人、世帯数1,782戸となりました。
- その人口構造は、少子高齢化の著しい進行により、年少人口と老年人口の割合が逆転し、2015年(平成27年)には高齢化率30%を超えるとともに、まちの経済活動を支える生産年齢人口の割合も下がっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、将来にわたっても人口減少が進行し、2040年には2,512人となることが推計されています。
- 人口減少は、自然減及び社会減がともに影響しており、急激かつ継続的に人口減少しています。一方、出生に関わる合計特殊出生率は、全国や北海道より上回って推移しています。

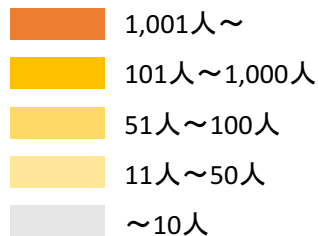


出典：豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年2月)
(※推計は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」)

(1) 統計データから見る現状と課題

■人口

- 豊富町には多くの集落が分散し、豊富市街を除き小さな集落が形成されています。その多くにおいて人口が減少しており限界集落化が懸念するなか、西豊富や温泉街の地区では人口が維持されています。

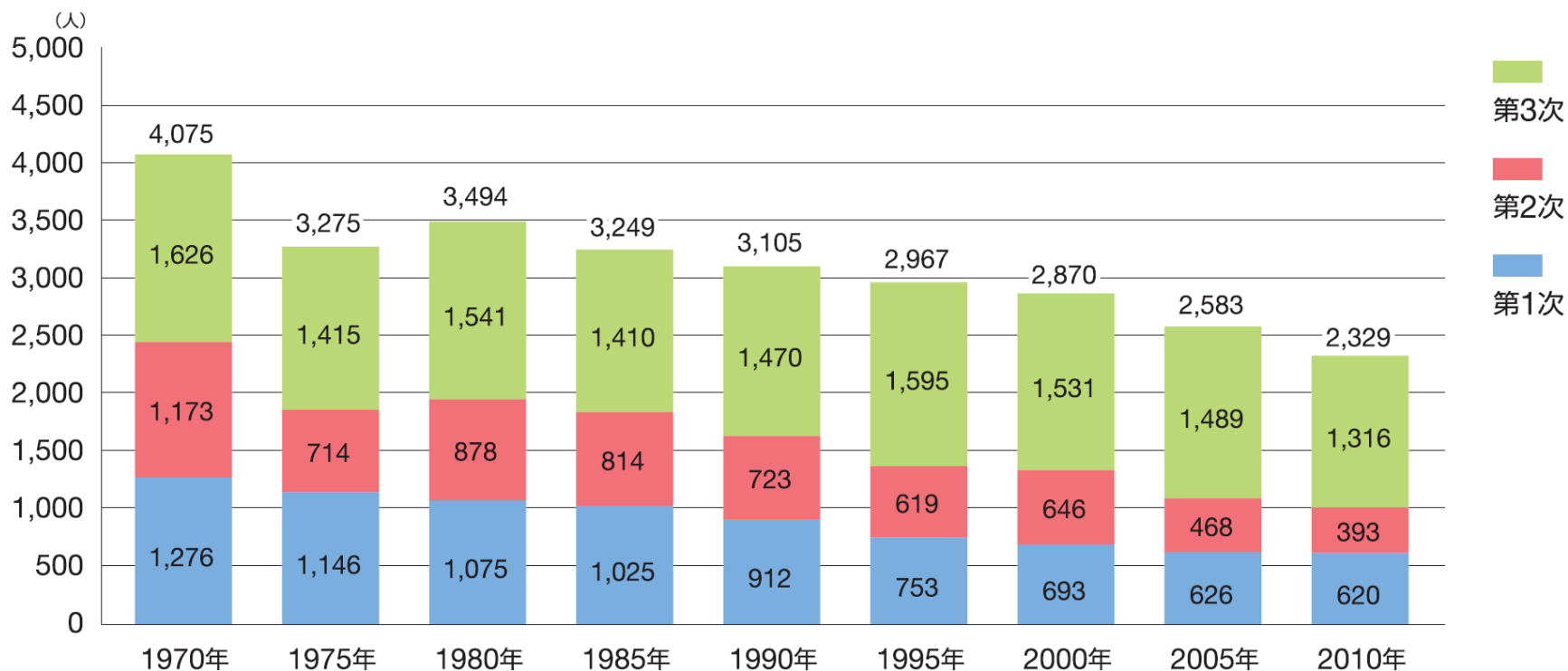


出典: 国勢調査(平成27年)
マップは豊富町観光協会

(1) 統計データから見る現状と課題

■産業別人口

- 豊富町の産業別人口は、2010年(平成22年)には2,329人と、1970年(昭和45年)の就業者数4,075人の約半分に減少しています。
- 産業別の割合は、医療福祉、宿泊・飲食、生活関連サービスなどの第3次産業の割合が増加しており、第1次産業及び第2次産業は減少しており、特に、第2次産業の就業者数が大きく減少しています。

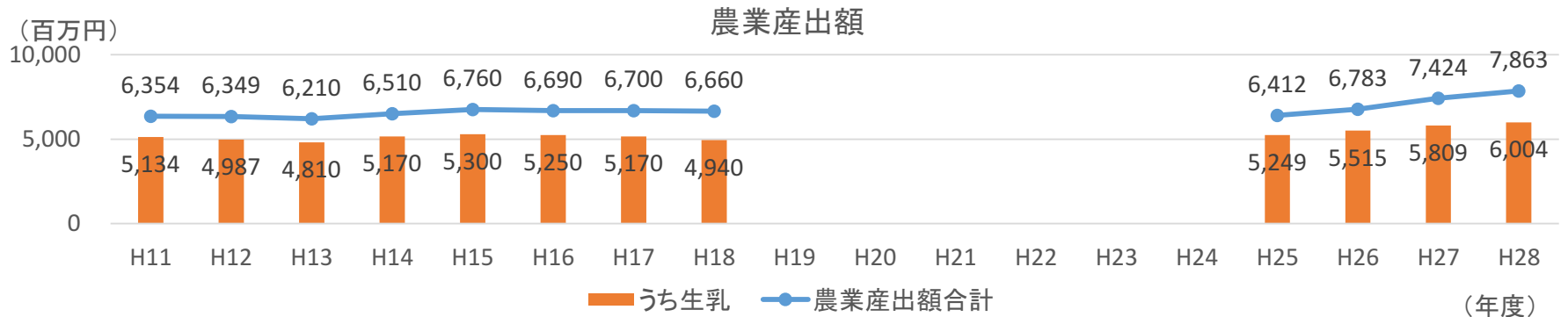
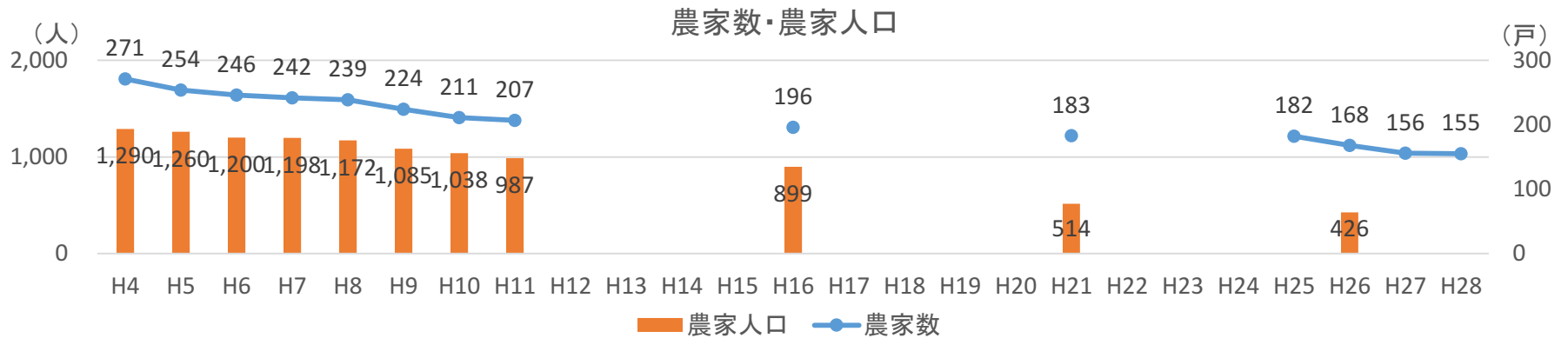


出典: 豊富町まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成28年2月)
(資料は国勢調査)

(1) 統計データから見る現状と課題

■産業 ～農業

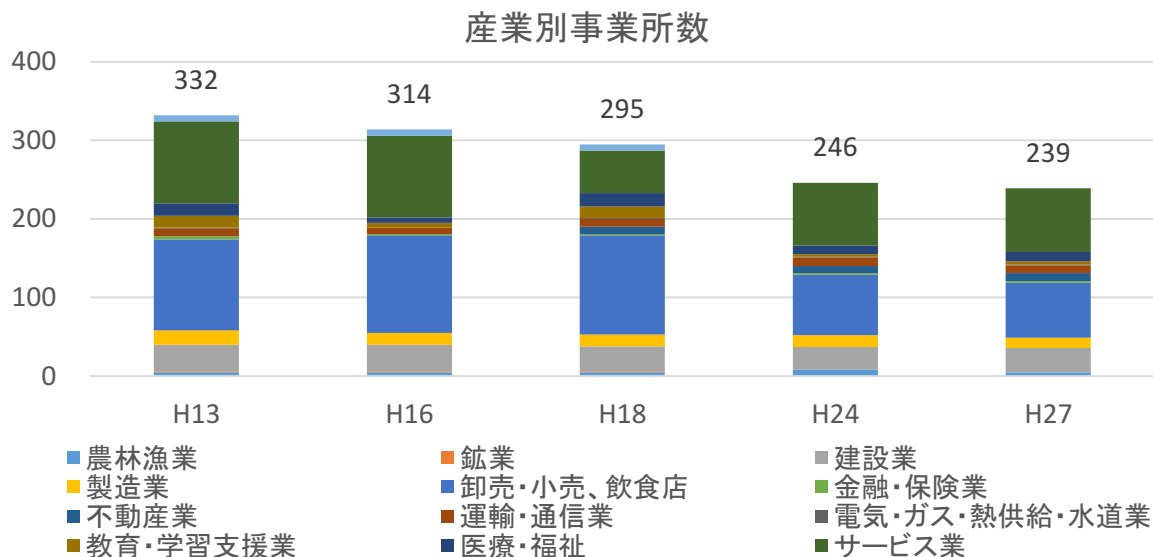
- 豊富町は、豊富牛乳に代表される酪農が基幹産業となっています。
- ただし、農家数及び農家人口は年々減少しています。
- 町内には、1,500ヘクタール(東京ドーム約320個分)の日本有数の広さを誇る「豊富町大規模草地育成牧場」を有し、乳用育成牛が広大な牧草地に放牧されています。
- 農業出荷額は、乳用牛のうち生乳が全体7,863百万円の75%以上を占めており(平成28年度)、乳用牛頭数は減少しているものの14,000頭を有している。
- 生乳生産販売量においても、平成28年度のJA豊富分で66,000トンを確認しています。



(1) 統計データから見る現状と課題

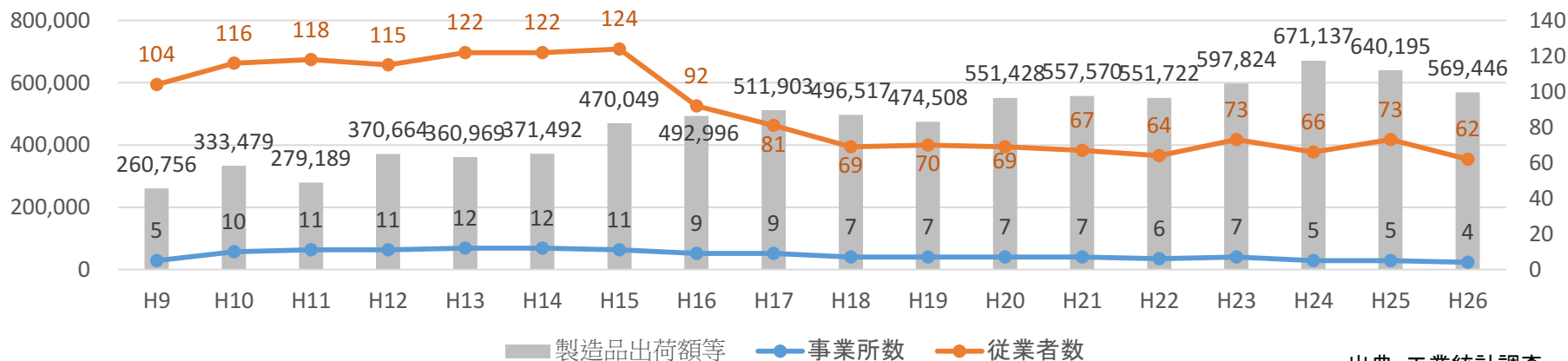
■産業 ～水産業・商工業

- 漁業の経営体は減少傾向となっています。
- 漁獲高では、さけやほっき貝が多くなっているものの、平成26年ではほっき貝の漁獲量は大きく減少しています。
- 町内の事業所総数は減少傾向にあり、卸売・小売業、飲食店も減少傾向となっています。
- 工業では、製造品出荷額は、事業所数及び従業者数が減少しているものの、増加傾向にあります。



出典：平成18年まで事業所・企業統計調査、平成24年より経済センサス

事業所数及び従業者数、製造品出荷額

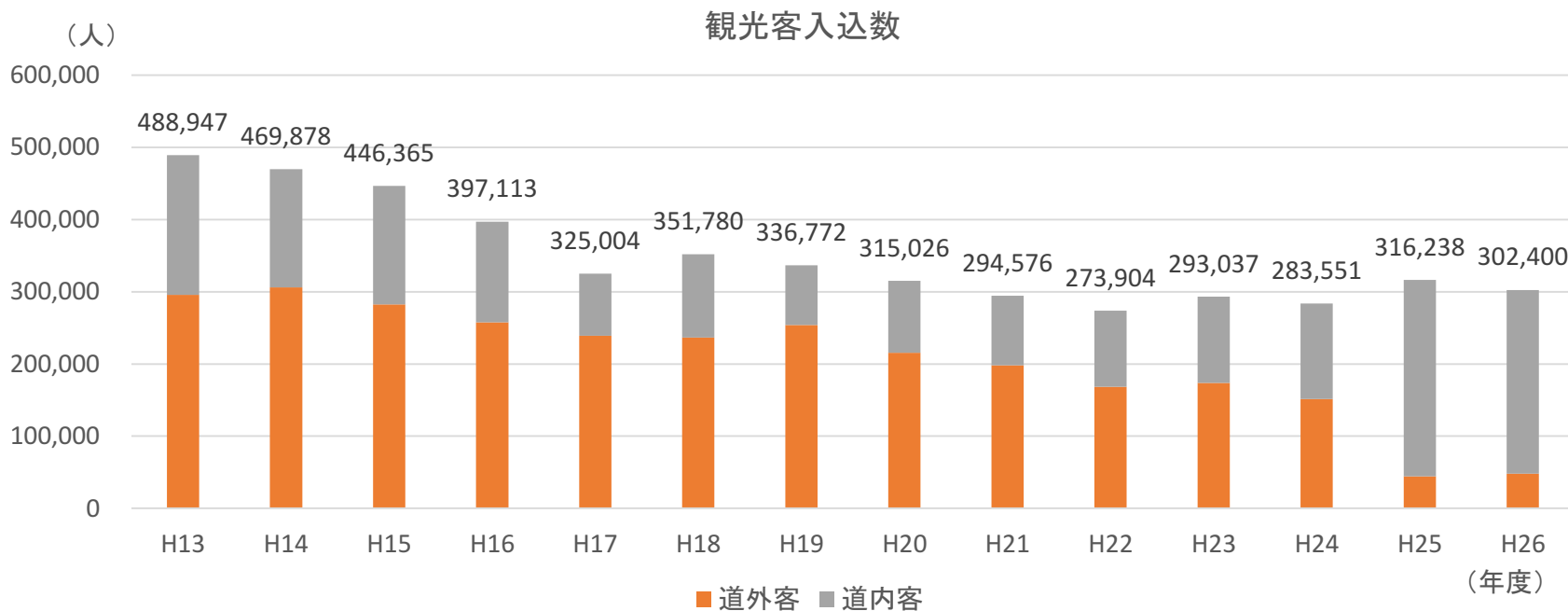


出典：工業統計調査

(1) 統計データから見る現状と課題

■産業 ～観光

- ・ 豊富町には、全国的にも類のない泉質を持つ最北の温泉郷があり、油分を含んだお湯は、石油の臭いも特徴のひとつで、保湿保温効果が高く美肌の湯としても知られているとともに、近年では、アトピー性皮膚炎や乾癬等の慢性皮膚疾患でお悩みの方々からも注目され、全国から多くの方々がお湯治に訪れています。
- ・ また、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されているサロベツ湿原など優れた自然が観光資源となっています。
- ・ 観光客入込数は、増減を繰り返しながら近年では年間30万人の観光客が訪れています。
- ・ また、平成24年度までは道外客が多かったものの、近年では道内客が入込数の大半を占めています。

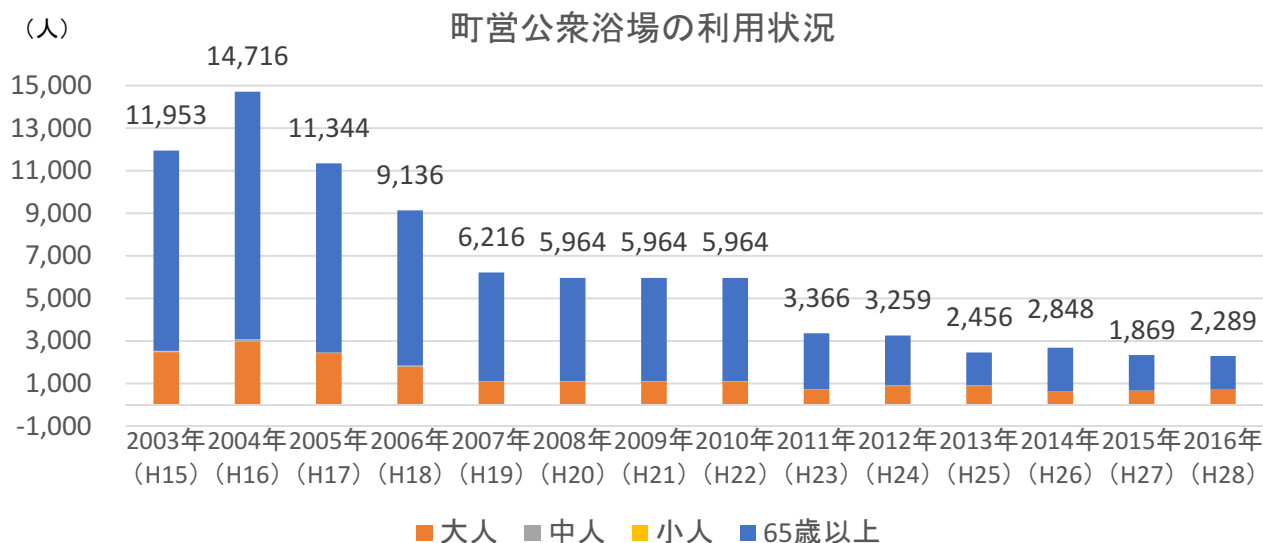


出典: 商工観光課

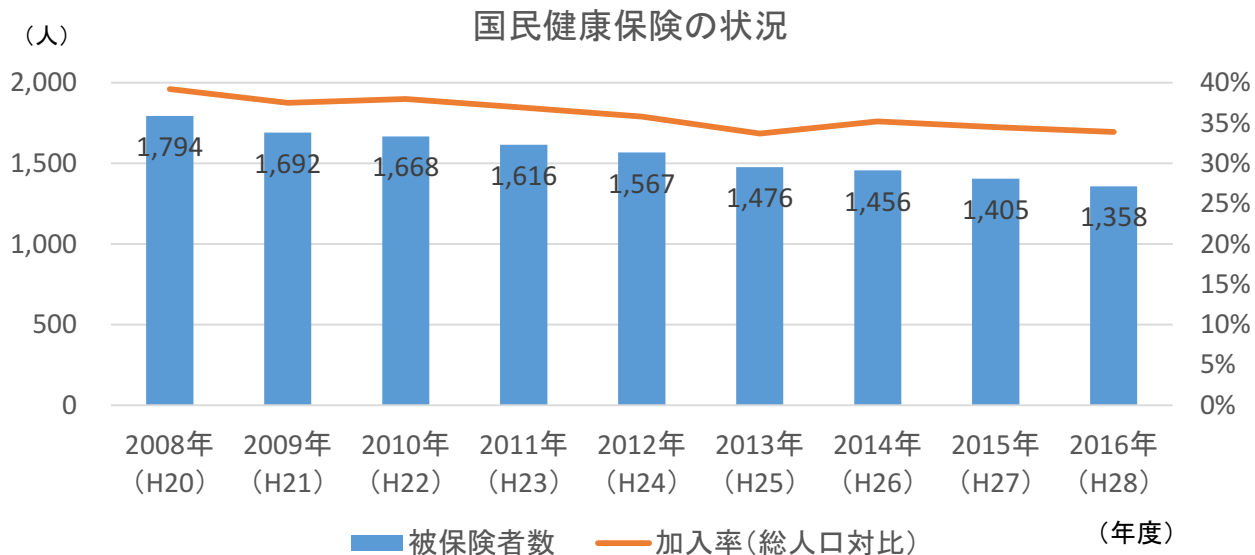
(1) 統計データから見る現状と課題

■暮らし・保健福祉 ～町営浴場、国民健康保険

- 町営公衆浴場の利用状況は、減少傾向にあります。
- 主に65歳以上の方の利用が多い状況です。



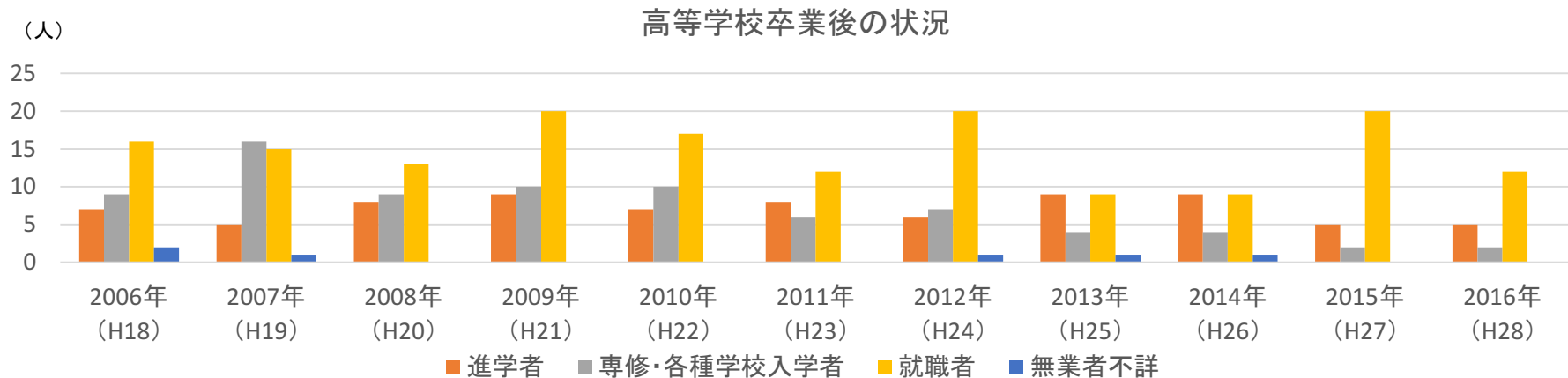
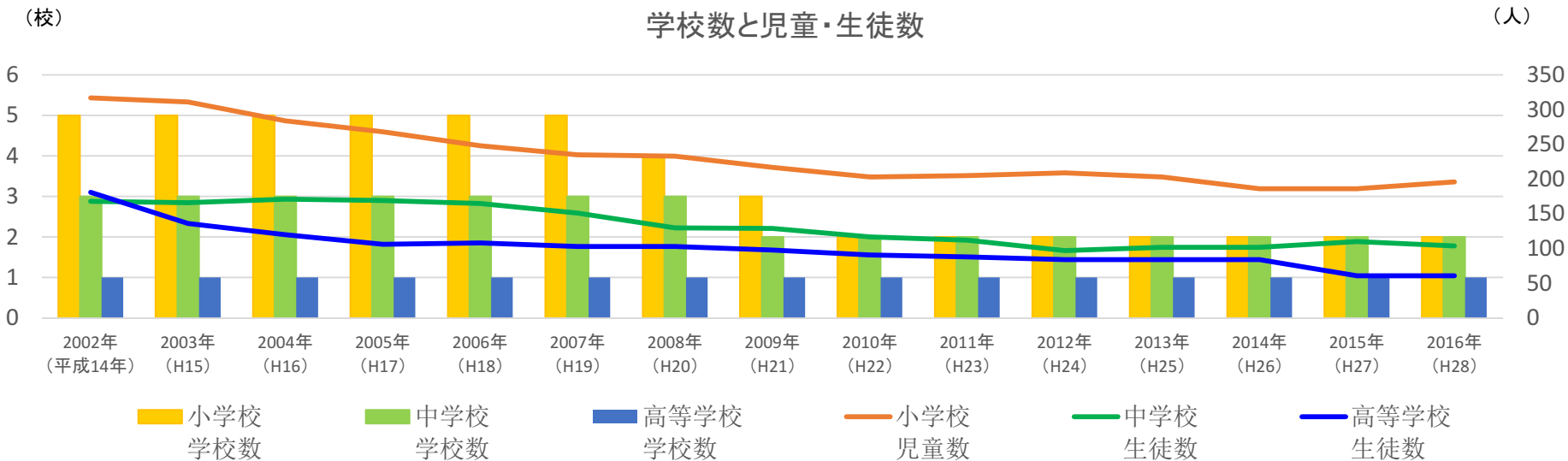
- 国民健康保険の被保険者数は、減少しており、平成28年度では1,358人となっています。
- 加入率も減少傾向にあります。



(1) 統計データから見る現状と課題

■教育 ～学校施設

- ・ 豊富町には、現在、小学校が2校、中学校が2校、高等学校が1校あります。児童・生徒数は減少しています。
- ・ 高等学校卒業後の進路は、就職者が多い年が多くなっています。

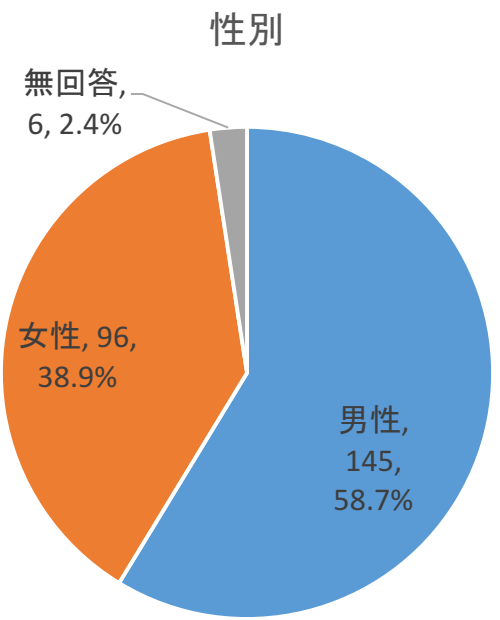


(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

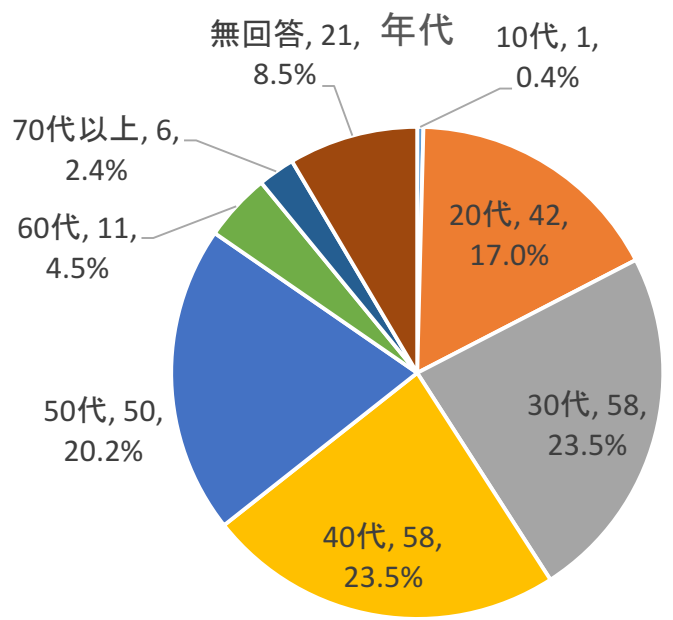
① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

- 調査時期 平成29年11月～平成29年12月
- 調査対象 豊富町のまちづくりに関わる団体、町職員
- 回収結果 配布数335、回収数247、回収率73.7%

■ 回答者属性



(N=247)



(N=247)

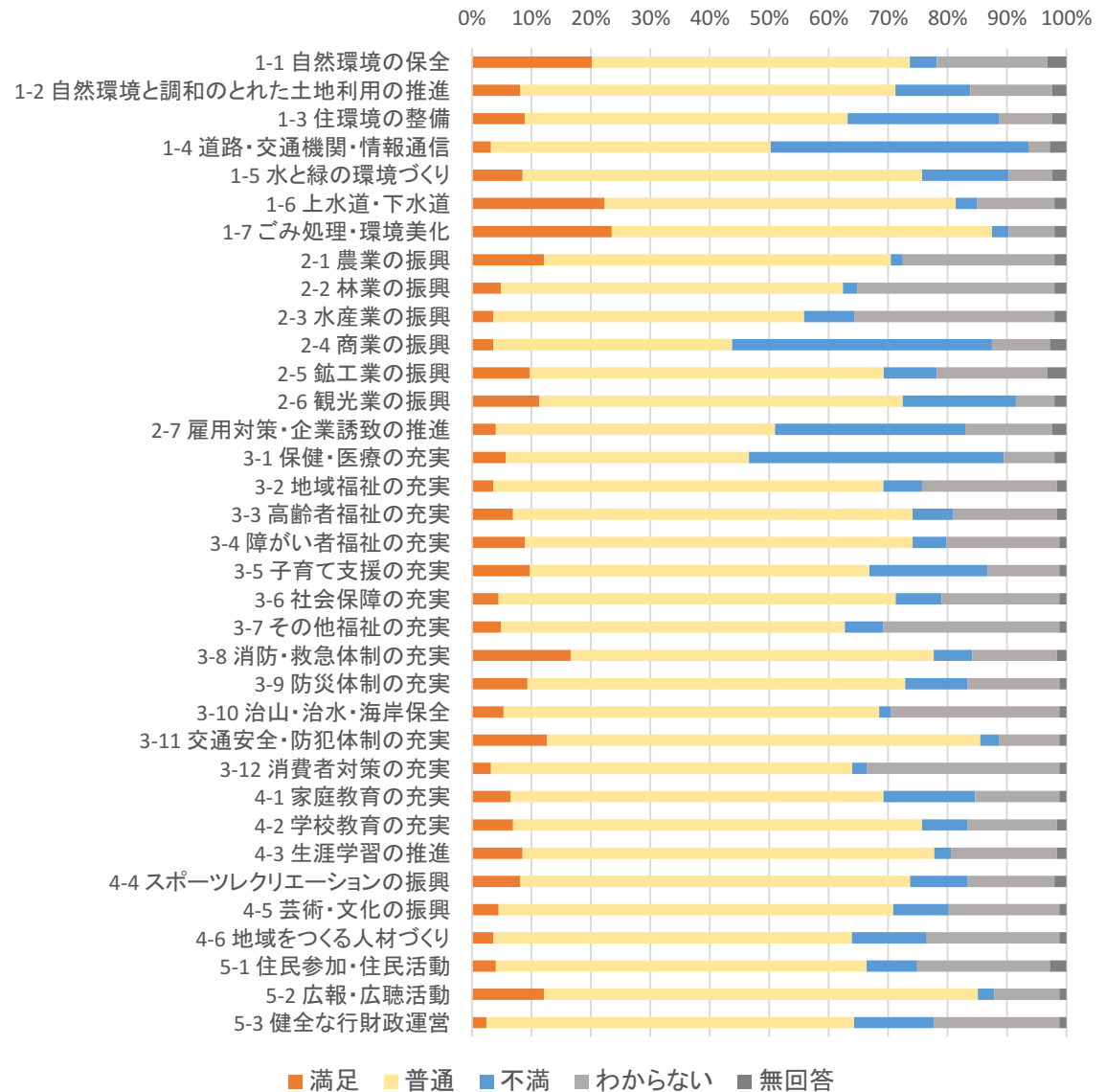
(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

■ 現状のまちづくりの取組の満足度

- 現状のまちづくりの取組に対する満足度について、概ねが普通との回答が多いなか、満足度が高いのは、「ごみ処理・環境美化」「上水道・下水道」「自然環境の保全」となっており、満足と回答した割合は20%以上となっている。これらに続き、「消防・救急体制の充実」「交通安全・防犯体制の充実」「農業の振興」「広報・広聴活動」となっている。
- 一方、不満との回答が多いのは、「商業の振興(43.7%)」「道路・交通機関・情報通信(43.3%)」「保健・医療の充実(42.9)」となっており、満足度が低い項目となっている。次いで、「雇用対策・企業誘致の推進(32.0%)」「住環境の整備(25.5%)」となっている。

現状のまちづくりの満足度



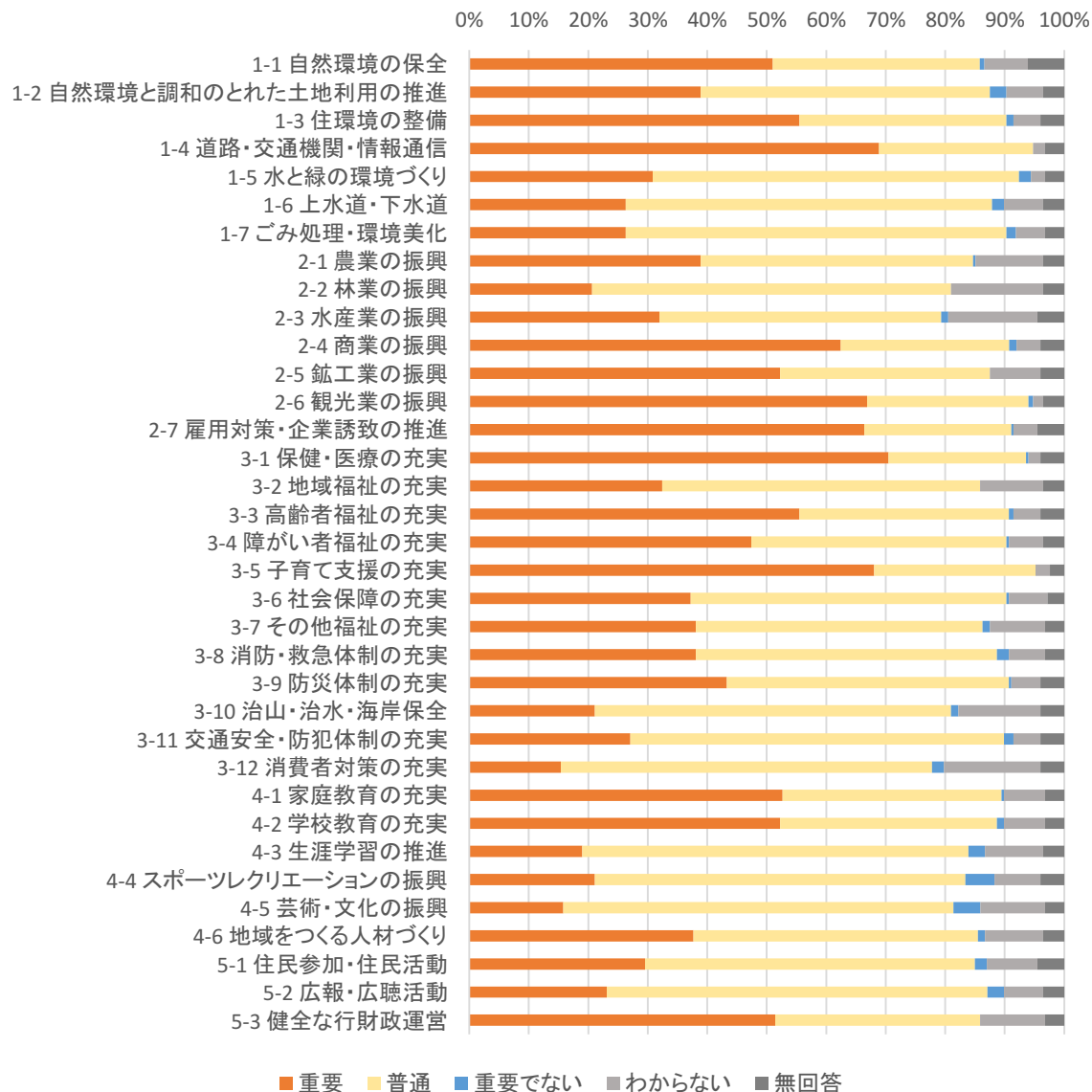
(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

■ 今後のまちづくりにおける重要度

- 今後のまちづくりの取組における重要度について、全体として重要でないとの回答は少なく、その中で、「保健・医療の充実(70.4%)」「道路・交通機関・情報通信(68.8%)」「子育て支援の充実(68.0%)」「観光業の振興(66.8%)」「雇用対策・企業誘致の推進(66.4%)」「商業の振興(62.3%)」の重要度が高くなっている。
- 前述の満足度と重要度を照らし合わせると、「保健・医療の充実」「道路・交通機関・情報通信」「商業の振興」については満足度も低く、今後特に重要な項目となっている。
- 一方、「観光業の振興」や「子育て支援の充実」については、現状不満は多くないが、将来的に力をいれるべき事項として捉えられている。

今後のまちづくりにおける重要度

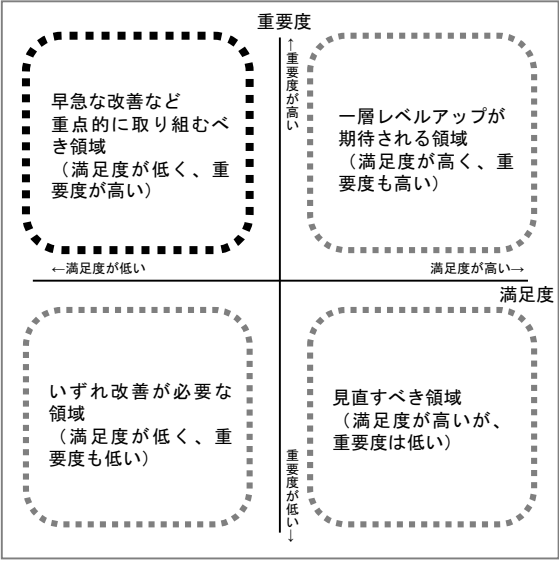


(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

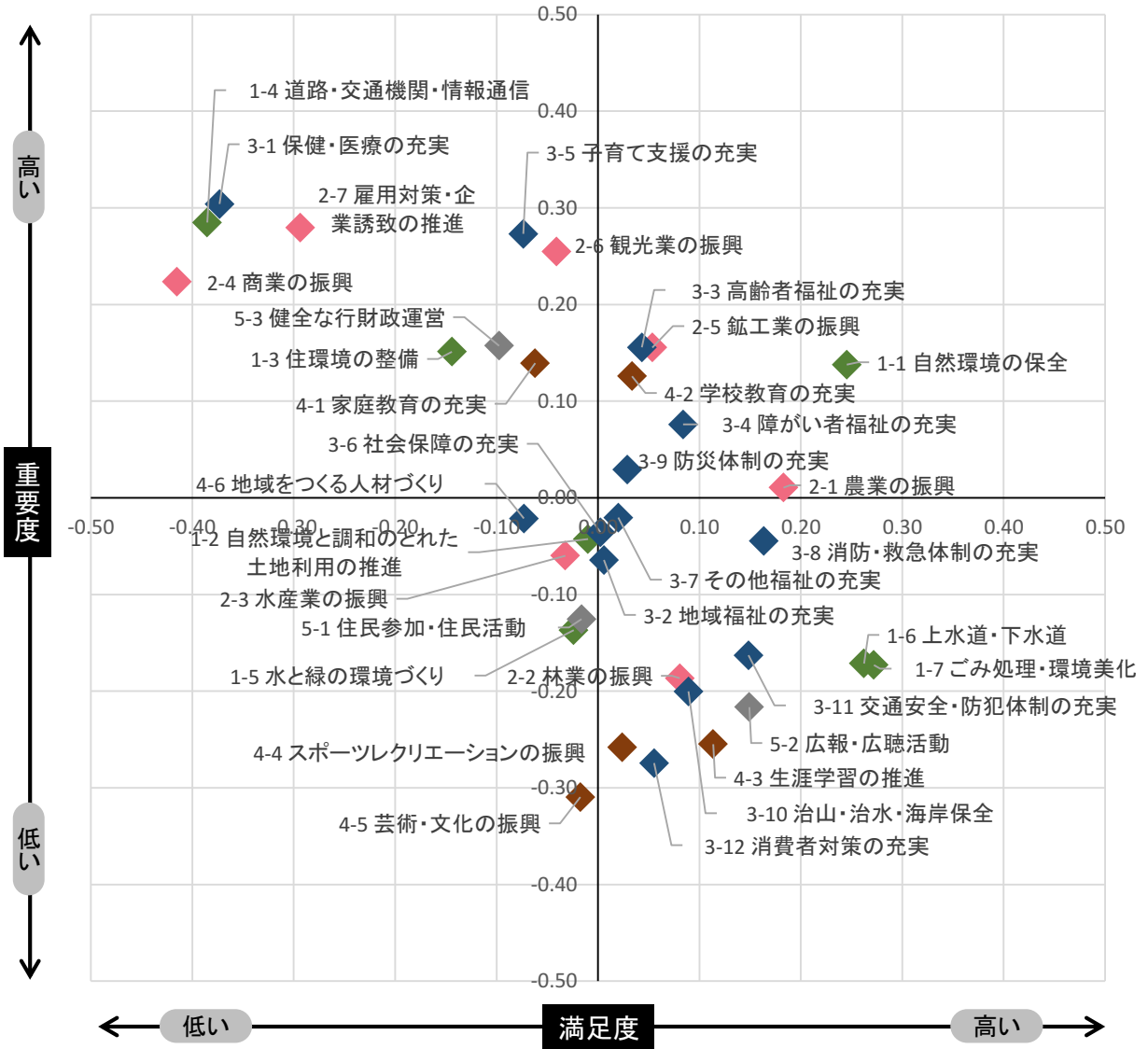
■ 今後のまちづくりにおける重要度

- 満足度が低く、重要度が高いものとして、「道路・交通機関・情報通信」「保健・医療の充実」「雇用対策・企業誘致の推進」「商業の振興」があげられおり、重点的に取り組むことが期待されている項目となっている。



※各項目について、回答サンプルに対して上記の点数化を行い、その平均値について「満足度」と「重要度」の関係をグラフ化している。
 ※なお、グラフの軸は「満足度」及び「重要度」それぞれの全項目の平均値としている。

まちづくりに対する満足度と重要度



(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

■ まちづくりに関して現状特に不満なこと、今後特に重要なこと

≪特に不満なこと≫※回答が多かった事項を抜粋

○1-3 住環境の整備

- ・移住や湯治客の受入体制として、住環境が不足している。
- ・中古住宅の取得や新築住宅建設の推進を進めたほうがよい。

○1-4 道路・交通機関・情報通信

- ・住民(交通弱者)及び訪れる人の足を確保することが必要。
- ・JRやバスの公共交通機関が不便。
- ・町内や稚内とのコミュニティバスやデマンドバス等を充実できないか。

○2-4 商業の振興

- ・買い物する店(日用品、急な買い物)、飲食店がない。
- ・商品が少ない、高い。
- ・商店街が寂しい感じがする。活気がない印象。
- ・高齢化を踏まえた医師の確保、医療の質向上が課題。

○3-1 保健・医療の充実

- ・小児科をはじめ医療体制が整っていないため不安。
- ・高齢化を踏まえた医師の確保、医療の質向上が課題。

≪特に重要なこと≫※回答が多かった事項を抜粋

○1-3 住環境の整備

- ・町内の定住を進めるため、まず住環境の整備が不可欠。
- ・人口を増やすには温泉客を取り込むことが必要であり、住宅が重要になる。
- ・コンパクトシティを取り入れた考えにしていくべき。

○1-4 道路・交通機関・情報通信

- ・JRの存続。絶対になくしてはいけない。
- ・コミュニティバスを走らせてほしい。

○2-1 農業の振興

- ・基幹産業の農業を強くするとともに、商業が強くなる仕組みづくりが必要。
- ・セイコーマート等を通して町の知名度や酪農業のイメージを向上させる。
- ・エネルギーやバイオマスの検討の必要ではないか。

○2-6 観光業の振興

- ・温泉をはじめとする資源を活かして、人を呼び込むための実効性のある計画が重要である。
- ・温泉街の活性化や施設のリニューアルで泉質以外のアピールも必要。

○2-7 雇用対策・企業誘致の推進

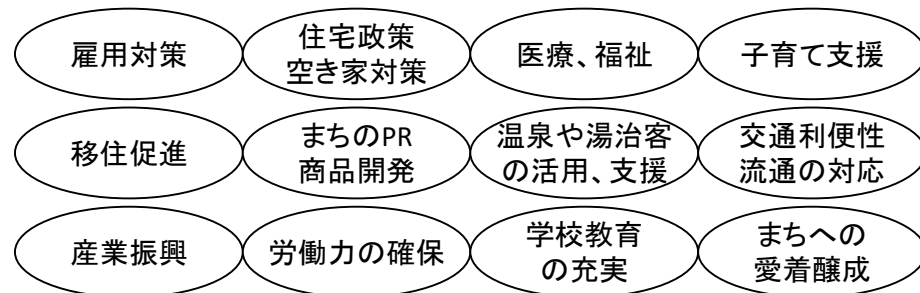
- ・人口流出を防ぐため、働く場所の確保が必要。雇用対策や企業誘致に力をいれるべき。
- ・町内の各企業が雇用拡大に取り組む必要がある。

(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

① 新たなまちづくり計画の策定に向けたアンケート調査(※大人向け)

■ 豊富町の人口減少・少子高齢化に対する解決策・アイデア

- 人口減少に対して、「雇用対策」「住宅政策」や「空き家対策」の意見が多いほか、安心して暮らすための「医療・福祉」「子育て支援」などもあげられている。
- また、「移住促進」に関しては、「まちのPR」や「温泉や湯治客の活用や支援」などもあげられている。さらには、若い世代が戻ってくるための子どもの教育として、まちへの愛着づくりの重要性なども出されている。



■ 今後の行政運営のあり方

- 行政運営に関しては、行政組織や体制の見直しのほか、行政サービスの向上、効率化の意見が出されている。加えて、行政職員の質向上や人材育成の意見もある。
- また、人口減少を背景として、財源の確保とメリハリのあるお金の使い方(行政運営)も期待されている。それに関連して、ハコモノといわれる施設の整備の是非や活用も重要となっている。
- そのほか、協働のまちづくりや産業振興、まちづくり計画に関わる意見もあげられている。

■ 協働のまちづくりのあり方、アイデア

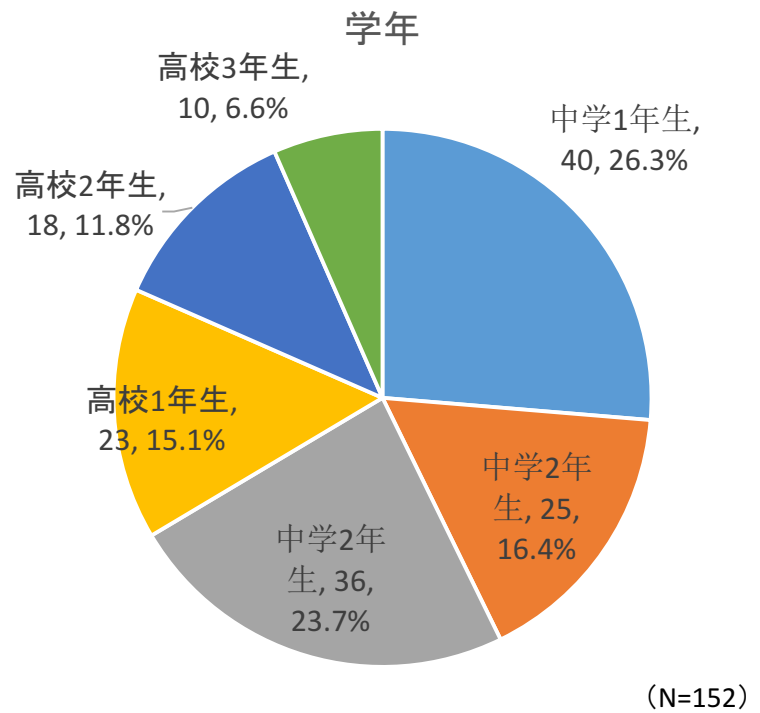
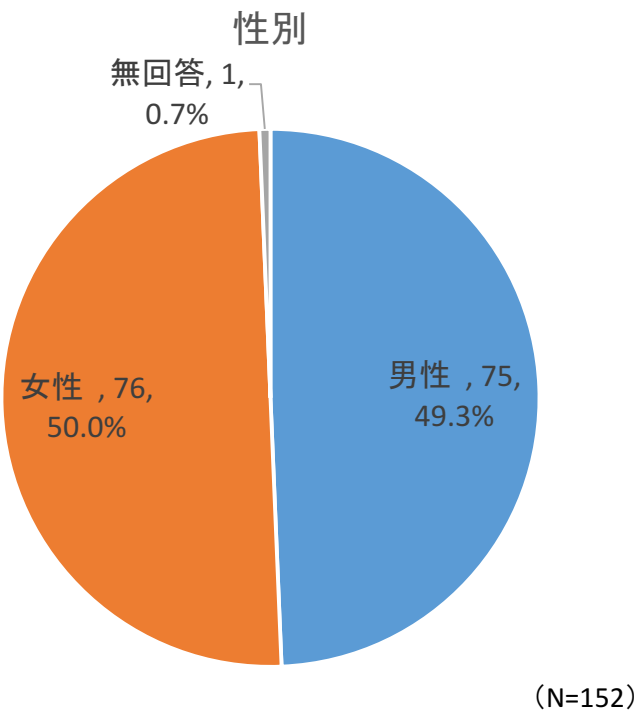
- 協働のまちづくりに関しては、住民ニーズやアイデアを把握するとともに、それらを活かしたまちづくりが期待されている。また、住民のみではなく団体や企業との連携が求められており、それらを進めるための協働のまちづくりの仕組みづくりが求められている。
- 加えて、協働のまちづくりを進めていくための意識の醸成や人材育成、そのための活動への参加の促進、さらには住民主体のまちづくりが重要となっている。

(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

②まちづくり学生アンケート調査(※中高生向け)

- 調査時期 平成29年11月～平成29年12月
- 調査対象 中学生:豊富中学校、兜沼中学校 高校生:豊富高校
- 回収結果 配布数160、回収数152、回収率95.0%

■回答者属性

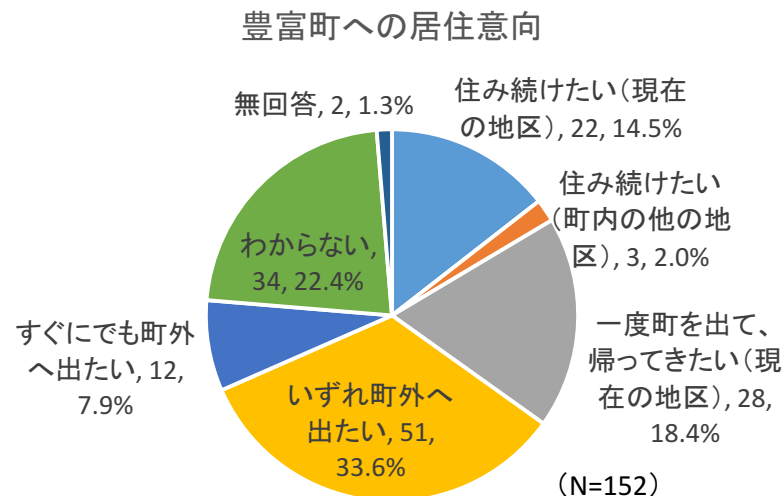


(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

②まちづくり学生アンケート調査(※中高生向け)

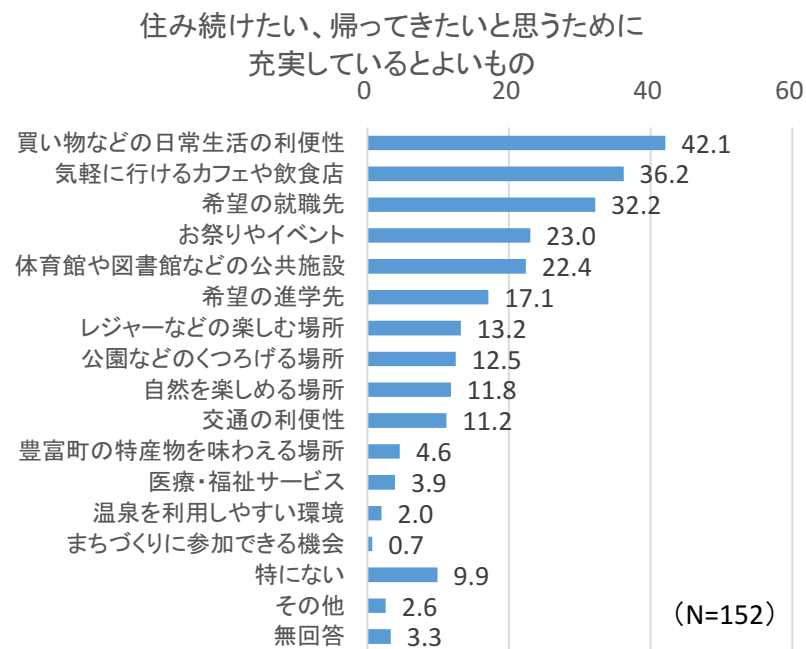
■ 豊富町への居住意向

- 豊富町への居住意向について、「住み続けたい(現在の地区)」が14.5%、「住み続けたい(町内の他の地区)」が2.0%となっている。
- 一方、町外へ出たいとの意向は、「すぐにでも町外へ出たい」が7.9%、「いずれ町外へ出たい」が33.6%、「一度町を出て帰ってきたい(現在の地区)」18.4%と、合わせると59.9%となっている。
- 「いずれ町外へ出たい(33.6%)」が最も多い回答となっており、町外へ出たとしても戻ってくるような取組が求められる。



■ 住み続けたい、帰ってきたいと思うために必要なこと

- 豊富町に住み続けたい、帰ってきたいと思うために充実していると感じるものに関して、「買い物などの日常生活の利便性(42.1%)」が最も多く、次いで「気軽に行けるカフェや飲食店(36.2%)」、「希望の就職先(32.2%)」、「希望の進学先(17.1%)」となっている。

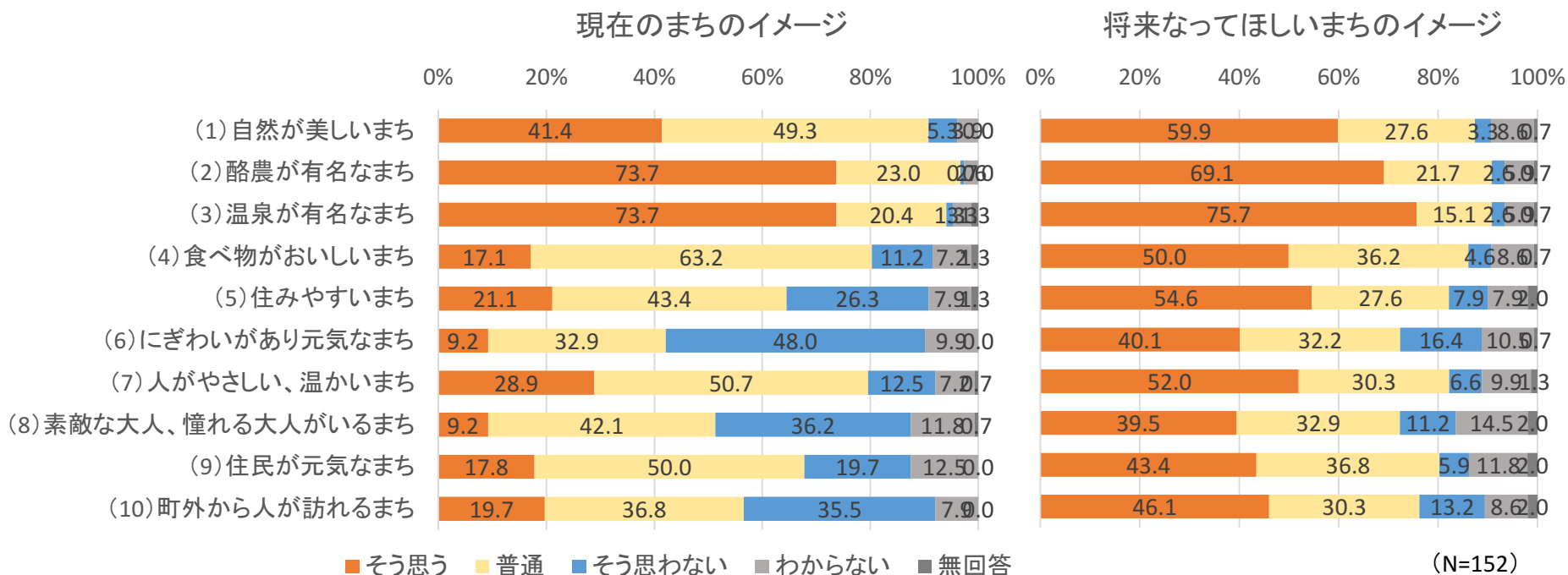


(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

②まちづくり学生アンケート調査(※中高生向け)

■ 豊富町の現在及び将来のイメージ

- 現在のまちのイメージに関して、「酪農が有名なまち」「温泉が有名なまち」のイメージが強く、「そう思う」が70%以上となっている。一方、「そう思わない」を見ると、「にぎわいがあり元気なまち」や「素敵な大人、憧れる大人がいるまち」のイメージがない傾向にある。
- 将来なっしてほしいまちのイメージでは、「酪農が有名なまち(69.1%)」「温泉が有名なまち(75.7%)」が高くなっている。加えて、「自然が美しいまち(59.9%)」「住みやすいまち(54.6%)」「人がやさしい、温かいまち(52.0%)」が半数以上の回答となっている。
- 現在のまちのイメージと比較すると、「酪農が有名なまち」「温泉が有名なまち」は現在から将来にわたってまちのイメージとして強く求められていると言える。また、「自然が美しいまち」「住みやすいまち」「人がやさしい、温かいまち」は、現在のイメージは強くないなか、将来的に期待されていると言える。



(2) 町民意向(アンケート調査結果概要)

②まちづくり学生アンケート調査(※中高生向け)

■ 豊富町で「自慢できるもの」「将来の残したいもの」

- 自慢できるもの・将来残したいものとして、「自然」「酪農及び乳製品」「温泉」が主軸となっているほか、住民の温かい心やさしい人、地域での交流などもあげられている。

自然

自然豊か、自然がきれい、空気が新鮮、自然公園、サロベツ湿原、CMIになっている

酪農・牛乳・乳製品

豊富牛乳、ヨーグルト、アイス、ソフトクリーム、美味しさ

温泉

効能、アトピーを持つ人が町外から利用しにくる、湯治施設がたくさんある

その他

食べ物が美味しい、明るくやさしい人、住民の温かい心・仲の良さ、ヨガや英会話などの無料体験、医療が免除されている、地域での交流

■ 豊富町のまちづくりに対する提案やアイデア

- まちのイメージとして、元気なまちや明るいまち、きれいなまち、住みやすいまちなどが出されている。
- また、具体的なアイデアとして、「自然を守る」や「観光スポットを増やす」、「豊富温泉を町外にアピールする」、「賑わいのあるイベントをつくる」などのアイデアが出されている。
- そのほか、買い物環境としての本屋や飲食店、娯楽施設、公園、スポーツする場所が求められている。

(3) まちの特徴や地域資源、ポテンシャル

自然

- 総面積520.67km²のうち、80%を山林・原野・農用地・池沼を含めた自然的土地利用
- サロベツ湿原を有する利尻礼文サロベツ国立公園



酪農・牛乳

- 日本有数の広さを誇る「豊富町大規模草地育成牧場」
- 豊富牛乳公社による、地元で生産された豊富牛乳の加工・生産
- セイコーマート牛乳の生産工場と流通



温泉力

- 世界的に見ても珍しい誇るべき油分を含んだ温泉
- 湯治客の聖地
- 豊富温泉ふれあいセンター・温泉自然観察館の「温泉利用型健康増進施設」認定
- 温泉力地域協力協定の締結(大分県竹田市、秋田県仙北市・豊富町)



ブランド

- 牛乳や温泉での全国的な知名度
- 「ふるさとチョイスアワード2016」のノミネートによる注目度



人

- 温泉湯治客の移住者の増加
- 若い世代の活躍

(4) 豊富町を取り巻く社会情勢の変化

- 人口減少・少子高齢化をはじめ、世界規模での環境問題、外国人観光客の急速な増加とグローバル化、さらには革新的な技術の発展など、豊富町を取り巻く社会環境は大きく、そして刻一刻と変化しています。
- 第5次まちづくり計画では、時代とともに刻々と変化する社会情勢をとらえ、長期的な視点からまちづくりの方向性を探ることが求められます。

人口減少・少子高齢社会の到来

- 我が国は人口減少・少子高齢社会を迎えており、人口増加が見込まれず、社会全体を維持することが困難な時代となっています。
- 人口減少と少子高齢化の進行は、労働力の減少や消費の低下、さらには経済規模の縮小による地域活力の低下に影響します。加えて、社会保障費の負担増大、地域コミュニティの維持困難など社会経済に与える影響が懸念されます。

地方分権 地方創生

- 地方分権が進み、地方自治体は自ら行政運営を行うことが求められています。また、近年では、地方創生が謳われ、首都圏への一極集中の是正など、地方のそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会づくり、魅力あふれる地方のあり方を構築することが求められています。
- このような背景から、平成26年には「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、それに伴い、国では「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が決定されています。

環境問題やエネルギー問題の深刻化

- 地球温暖化や異常気象による災害など地球レベルでの環境問題が深刻化しています。
- 化石燃料が枯渇してきているなか、地球温暖化への対応、災害時にでも自力で電力を確保できるような強靱なまちづくりを進めるために、太陽光や風力など再生可能エネルギーなどを導入することが求められています。

安心安全志向の高まり

- 東日本大震災をはじめ、豪雨や台風など、地震や水害、土砂災害等の自然災害が近年多く発生しています。
- 日常生活においては、子どもや高齢者の見守りの必要性が高まっているほか、通信インフラの発達を逆手に利用した犯罪の多発など様々な不安が高まっています。
- さらに、食の安全確保など、様々な分野における安全・安心への関心が高まっています。将来に渡って、安全で安心に暮らせる社会の実現が求められています。

(4) 豊富町を取り巻く社会情勢の変化

ライフスタイルや 価値観の多様化

- 社会環境の変化から、人々の価値観や意識は、単純なお金の価値だけではない、モノから心の豊かさへ、量よりも質を重視する社会へと変わってきています。
- また、通信インフラの発展や経済・流通のグローバル化に伴い、モノからコトを楽しむ暮らしが当たり前になりつつあります。例えば、インターネットで買い物をしたり、時間消費のために出かけたり、価値観は多様化しています。加えて、モノだけでなく、時間や空間などをもシェアする暮らしが拡大しつつあります。
- 国では多様な働き方の実現を目指した「働き方改革」が進められているとおり、ライフスタイルや雇用形態が大きく変化しているなか、女性の就業や活躍の場づくりの意識も高まっています。

国際志向と 地域志向の進展

- 我が国では経済社会全体の国際化が進んでいます。特に、アジア圏をはじめとした海外から北海道へ訪日する観光客の増加など著しいものがあります。
- また、TPP(環太平洋連携協定)のような多国間貿易協定への参加に向けた動きが顕在化し、特に農業分野では、経済的発展と国内農業保護・振興をどう両立していくかの議論が高まっています。
- 一方で、地方創生が進められているとおり、地域の特徴をそれぞれに活かした魅力あふれるまちづくりが求められています。若い世代において地元志向や田園回帰などの高まりも見せています。

第4次産業革命 による技術革新

- ICT化(情報通信技術化)の進展は著しく、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の普及などにもより、世界との距離も一層近くなっています。
- また、ビッグデータ、AI(人工知能)、IoT、ロボットなどに代表される技術革新が急速に進んでおり、近い将来、あらゆるモノ、コトが実現可能になる時代が到来すると言われています。
- 今後、それらは新しいインフラとして、生活に劇的な変化をもたらすことが予想されています。

移動と交流の 拡大

- あらゆる分野での技術革新に伴い、グローバル化がさらに進んでいくことから、世界から人・モノ・カネ・情報を引き付けることが可能となります。そのため、それらを有効に活用して、交流を活発化することが地域の価値向上に重要となります。
- 人の移動では観光はもちろん二地域居住や就労を促し、モノやカネの移動は産業と密接につながっていきます。加えてICTなどのネットワーク化によって、さまざまな交流からイノベーションへの展開や拡大が期待されています。

持続可能な 開発目標 (SDGs)

- 2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標として「持続可能な開発目標(SDGs)」の取組も国内で進んできています。
- 世界を変えるための17の目標が設定されています。



(5) 国や北海道の上位計画、関連計画

■国土のグランドデザイン2050(国土交通省) 平成26年7月

- 「国土のグランドデザイン2050」では、『コンパクト+ネットワーク』をキーワードとし、実物空間と知識・情報空間が融合した「対流促進型国土」の形成が目指すべき姿として示されています。
- その中には、各地域での多様性の再構築、そして地域間の「連携」により人・モノ・情報の交流を促進するため、12の基本戦略が掲げられています。

■北海道総合開発計画(国土交通省) 平成28年3月

- 北海道総合開発計画では、概ね平成37年度までを計画期間とし、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道が持つポテンシャルを最大限に活用することにより、2050年の長期を見据え、「世界の北海道」を目指しています。
- キャッチフレーズ「世界の北海道」に向けて、「①人が輝く地域社会」「②世界に目を向けた産業」「③強靱で持続可能な国土」の3つの目標が示されています。

■北海道総合計画(北海道) 平成28年3月

- 北海道総合計画は、平成28年度～平成37年度を計画期間とした、北海道の基本的な方向や行動するための指針となるものとして、「輝き続ける北海道」を目指して、7つの将来像が設定されています。

- ①地域全体で支える子育て環境・最適地、②北国で心豊かに暮らせる安全・安心社会、③豊かな自然と共生する環境先進モデル・北海道、④世界に広がる“憧れのくに”北海道ブランド、⑤北海道の潜在力を活かす地域経済の循環、⑥北の大地を力強く切り拓く豊富な人材、⑦北海道ならではの個性あふれる地域

■北海道人口ビジョン・北海道創生総合戦略(北海道) 平成27年10月

- 北海道創生総合戦略は、めざす姿「幅広い世代が集い、つながり、心豊かに暮らせる包容力のある北海道」に向けて、5つの基本戦略を掲げています。
- また、北海道価値の磨き上げ、北海道産業の競争力強化、人や地域の「結びつき」を高めるため、5つの重点戦略プロジェクトが示されています。

■道北連携地域政策展開方針(北海道) 平成28年7月

- 連携地域政策展開方針は、「北海道総合計画」に示す6つの連携地域ごとに策定する地域計画です。平成28年度から概ね5年間を対象期間となっています。
- 道北連携地域政策展開方針では、「広大な土地や特色ある自然環境、多様な資源を活かした産業が展開し、心豊かで安心して暮らせる「道北連携地域」」をめざす姿として全13プロジェクト(うち宗谷地域に関連するものは7プロジェクト)が示されています。

(6) 豊富町のこれからのまちづくりに求められること、主要課題や重要な視点(案)

- 人口減少・少子高齢社会への対応
→移住定住、雇用、住宅施策、高齢福祉
- コンパクト化とネットワーク
→集落維持、地域内交通、住宅確保、機能分担
- 地域資源の磨き上げと掛け合わせ(架け橋)
→自然・温泉・酪農の地域産業の連携
- 温泉ブランドを活かした交流人口の増加
→観光産業、温泉×〇〇、情報発信
- スモールビジネスの創出
→ソーシャルビジネス、雇用創出、町民による生活支援サービス
- AIなどの高度技術を活かした効率化
→大規模農業、担い手不足への対応、新たな付加価値化、安心した暮らし
- 稼ぐまちづくり
→外貨の獲得、域内循環
- 人財とコミュニティ
→子どものまちづくり教育、町民自治、多世代交流
- 町民主体・町民発信のまちづくり
→地域への愛着、まちづくりへのかかわり、社会参加、ソーシャルデザイン